

CAMD セミナー

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

遺伝子改変マウスを用いた 記憶の脳内表現の可視化と操作

大阪大学大学院医学系研究科 分子行動神経科学 独立准教授

松尾直毅 先生

平成 29 年 5 月 25 日 (木) 午後 4 時 00 分～

第 1 研究棟 2 階小会議室

松尾直毅先生は記憶の可視化と操作により記憶学習のメカニズムの研究を一貫して行われて来ました。これまでに学習時における AMPA 受容体のマッシュルーム・スパインへのリクルート（1）や個々の記憶に特有な神経細胞群の割り当て（2、3）の発見など記憶学習研究の発展に寄与されています。さらに最近、前障一嗅内皮質のコネクションとその文脈記憶における役割（4）を見出されました。この度、ご講演を拝聴すべく招聘致しましたので皆様のご参集をよろしくお願い致します。

- 1) **Matsuo N**, et al. Spine-type-specific recruitment of newly synthesized AMPA receptors with learning. **Science** 2008, 319: 1104-7.
- 2) **Matsuo N**. Irreplaceability of Neuronal Ensembles after Memory Allocation. **Cell Reports** 2015, 11: 351-357.
- 3) Yoshii T, Hosokawa H, **Matsuo N**. Pharmacogenetic reactivation of the original engram evokes an extinguished fear memory. **Neuropharmacology** 2017, 113: 1-9.
- 4) Kitanishi T, **Matsuo N**. Organization of the Claustrum-to-Entorhinal Cortical Connection in Mice. **J Neurosci**. 2017, 37: 269-280.

連絡先：認知症先進医療開発センター
分子基盤研究部 里 直行（内線 6331）